

米子工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	応用計測工学	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	専攻科 生産システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	能登路 淳						
到達目標							
計測の基礎及び応用について 1. PCを用いた計測の基礎について説明することができる 2. 運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた計測例について説明することができる 3. 光・磁気を用いた計測例について説明することができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 PCを用いた計測の基礎	PCを用いた計測の基礎について説明することができる		PCを用いた計測の基礎についてある程度説明することができる		PCを用いた計測の基礎について説明することができない		
評価項目2 運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた計測例	運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた計測例について説明することができる		運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた計測例についてある程度説明することができる		運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた計測例について説明することができない		
評価項目3 光・磁気を用いた計測例	光・磁気を用いた計測例について説明することができる		光・磁気を用いた計測例についてある程度説明することができる		光・磁気を用いた計測例について説明することができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-3 JABEE d1							
教育方法等							
概要	計測は全ての科学分野の底辺を支える基本技術と考えることができ、その取扱う範囲は広範囲に渡っている。本講義では電気・電子計測が中心となるが、機械及び電気系出身以外の学生にもできるだけ計測全般について理解できるよう広範囲な応用計測について講義をするものである。						
授業の進め方・方法	電気・電子計測が中心となるので、特に電気・機械系以外の学生には本科で修得した概論程度の予習が必要である。講義は板書を中心に進めるため、必ずノートを取る。定期試験のほか適宜レポート提出を課す。 質問等はオフィスアワー（授業日の17:00～18:00但し会議日を除く）に電子棟3F能登路研究室にて受け付ける						
注意点	次のような自学自習を60時間以上行うこと。 ・授業内容の理解を深めるため、復習を行う。 ・適宜課題を与えるので、レポートを作成する。 ・定期試験の準備を行う。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の進め方及びガイダンス・計測の基礎		計測の基礎について理解する		
		2週	電気電子応用計測一般		PCを用いた計測システムについて理解する		
		3週	信号処理1（AD変換、フィルタ回路）		電子計測の基礎となる代表的なアナログ信号処理方法について説明できる		
		4週	信号処理2（デジタル処理）		電子計測の基礎となる代表的なデジタル信号処理方法について説明できる		
		5週	流体量の応用計測1		運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた流体量の計測例について説明できる		
		6週	流体量の応用計測2		運動量保存則やエネルギー保存則等を用いた流体量の計測例について説明できる		
		7週	光・磁気を用いた応用計測1		光及び磁気を用いた計測例について説明できる		
		8週	光・磁気を用いた応用計測2		光及び磁気を用いた計測例について説明できる		
	2ndQ	9週	光・磁気を用いた応用計測3		光及び磁気を用いた計測例について説明できる		
		10週	光・磁気を用いた応用計測4		光及び磁気を用いた計測例について説明できる		
		11週	光・磁気を用いた応用計測5		光及び磁気を用いた計測例について説明できる		
		12週	化学量・物質情報の応用計測1		化学量や物質情報の計測例について説明できる		
		13週	化学量・物質情報の応用計測2		化学量や物質情報の計測例について説明できる		
		14週	各種応用計測器1		代表的な応用計測機器について説明できる		
		15週	各種応用計測器2		代表的な応用計測機器について説明できる		
		16週	期末試験		計測の基礎及び応用について説明できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0